

めんどりちゃん (Henry Penny)

ある日、めんどりちゃんが、庭で麦の粒をつついて食べていると、頭にポトンと何か
落っこちてきました。めんどりちゃんは、

「まあたいへん。お空が落っこちてきたわ。王さまにお知らせしなくっちゃ」とさげんで、
走りだしました。

めんどりちゃんが、どんどん、どんどん、どんどん走っていくと、おんどりちゃんに会
いました。

「めんどりちゃん、どこ行くの」と、おんどりちゃんがききました。

「お空が落っこちてきたから、王さまに知らせに行くの」と、めんどりちゃんは答えまし
た。すると、おんどりちゃんは、

「ぼくもいっしょに行つていい」とききました。

「もちろんよ」と、めんどりちゃんはいいました。そこで、めんどりちゃんとおんどりち
ゃんは、いっしょに走つていきました。

どんどん、どんどん、どんどん走つていくと、あひるちゃんに会いました。

「めんどりちゃんにおんどりちゃん、どこ行くの」

「お空が落っこちてきたから、王さまに知らせに行くの」

「わたしもいっしょに行つていい」

「もちろんよ」

そこで、めんどりちゃんとおんどりちゃんにあひるちゃんは、いっしょに走つていきま
した。

どんどん、どんどん、どんどん走つていくと、がちょうちゃんに会いました。

「めんどりちゃんにおんどりちゃんにあひるちゃん、どこ行くの」

「お空が落っこちてきたから、王さまに知らせに行くの」

「わたしもいっしょに行つていい」

「もちろんよ」

そこで、めんどりちゃんとおんどりちゃんにあひるちゃんがちょうちゃんは、いっし
よに走つていきました。

どんどん、どんどん、どんどん走つていくと、しちめんちょうちゃんに会いました。

「めんどりちゃんにおんどりちゃんにあひるちゃんにがちょうちゃん、どこ行くの」

「お空が落っこちてきたから、王さまに知らせに行くの」

「ぼくもいっしょに行つていい」

「もちろんよ」

そこで、めんどりちゃんとおんどりちゃんにあひるちゃんがちょうちゃんとしちめん
ちょうちゃんは、いっしょに走つていきました。

どんどん、どんどん、どんどん走つていくと、きつねどんに会いました。

「めんどりちゃんにおんどりちゃんにあひるちゃんにがちょうちゃんにしちめんちょうちゃん、どこ行くの」

「お空が落っこちてきたから、王さまに知らせに行くの」
すると、きつねどんはいいました。

「じゃあ、道を間違えてるよ。ぼくが、教えてあげようか」

「ええ、もちろんよ」

そこで、めんどりちゃんとおんどりちゃんとおひるちゃんがちょうちゃんとしちめんちょうちゃんは、きつねどんの後について走っていきました。

どんどん、どんどん、どんどん走っていくと、せまくて暗い穴にやって来ました。そこは、きつねどんのうちの入り口でした。けれども、きつねどんはいいました。

「ここは王さまのお城へ行く近道なんだ。ぼくについておいで」

「ええ、もちろんついていくわ」と、めんどりちゃんとおんどりちゃんとおひるちゃんがちょうちゃんとしちめんちょうちゃんはいいました。

きつねどんは、先に穴に入っていきました。そして、すぐにふり向いて、みんなが入ってくるのを待ちかまえました。

まっさきに入ってきたのは、しちめんちょうちゃんでした。きつねどんは、しちめんちょうちゃんの頭をがぶつと食べて、からだをぼいっと横に投げました。

つぎに入ってきたのはがちょうちゃんでした。きつねどんは、がちょうちゃんの頭をがぶつと食べて、からだをぼいっと、しちめんちょうちゃんのとなりに投げました。

つぎに入ってきたのはあひるちゃんでした。きつねどんは、あひるちゃんの頭をがぶつと食べて、からだをぼいっと、しちめんちょうちゃんがちょうちゃんのとなりに投げました。

つぎに入ってきたのは、おんどりちゃんでした。きつねどんは、おんどりちゃんの頭をがぶつと食べようとして、失敗しました。おんどりちゃんは、さげびました。

「逃げろ、めんどりちゃん」

めんどりちゃんは、くるりと回れ右をして、どんどん、どんどん、どんどん、逃げて帰りました。

それで、めんどりちゃんは、お空が落っこちてきたことを王さまにお知らせできませんでしたとき。

おしまい